

科学委員会検討結果

「ノヤギ対策と外来植物対策について」「有人島でのノネコとネズミ対策について」

1. 検討の背景、経緯

年度当初の現地事務局会議において、東京都小笠原支庁からは、父島でのノヤギ根絶に向けて大幅に個体数を減らしている一方で、その反動としての外来植物の繁茂に対する島民からの危惧があること、環境省及び小笠原村からは、今後、母島でのネコ捕獲を本格化していくに当たり、ネズミの増加を危惧する島民の声があることなどを理由として、これらの課題に関して科学的な助言を受けたいとの要請があった。

このため、父島列島生態系保全管理ワーキング（8月18日）及び科学委員会非公式会合（10月29日）において、上記2つのテーマについて議論を行った。

2. 検討結果のまとめ

（1）ノヤギ対策と外来植物対策について

- ・ノヤギ駆除後の繁殖拡大が懸念される外来植物としてモクマオウとギンネムが上げられたが、特にギンネムについての危惧が多かった。
- ・将来にわたって小笠原にヤギが居続けることはないということに異論はなかったが、ノヤギをこのまま速やかに根絶すべきかどうかについては結論が出なかった。
- ・上記の議論においては、ヤギは一度根絶すべきであり、もしヤギを外来植物の抑制手段として使うなら完全にコントロールできる状態でなければならないという意見（この場合の根絶には、オスヤギのみを残し（又は放逐し）自然繁殖が進まない状態にすることも含んでいる）や、ヤギを残すメリットとデメリットを整理し、コストも含めて検討すべきという意見があった。
- ・共通認識として、守るべきものを明らかにし、それは着実に守るべきであるとされた。

（2）有人島でのノネコとネズミ対策について

- ・ネコの捕獲を進めることで、ネズミの個体群に影響を与えているかの議論が行われた。また、ネズミ、ネコが生態系に及ぼす影響についての認識を共有した。
- ・ネコがネズミに与える影響として「ネコの糞分析ではネズミが大部分を占めており、ネズミのおおよその個体数とネコの捕食量から考えると、影響を与えている可能性があるのでは」、「一般論として、ネズミもネコも分布密度にむらがあり、ネズミの個体数変動を考えると、局所的にネコがいなくなった場所でネズミが増える可能性は考えられるが、全体としてネコがネズミを抑えていたとは思えない」、「ネコとネズミの関係が安定している状況で、ネコを排除した場合は、増減の変動が大きくなる可能性があるのでは」等の意見があがった。
- ・地域の声として、農家にはネコが減ってネズミが増えたという不満が大きく、ネコ対策とネズミ対策とを同時に行わないと村民の理解が得られないという指摘があった。
- ・以上より、ネコが生態系に与える影響に鑑み、ネコ対策を進める必要性を確認した上で、ネズミに及ぼす影響の把握を継続し、結果に応じて今後の対策の方向性を検討していくべきとの結論が示された。と同時に、既に問題が生じているところは個別に対策をとるべき、との提言がなされた。